

# 小学校 第4学年 国語科 学習指導案

埼玉県さいたま市立三橋小学校  
教諭 板垣 貴斗

単元名

伝えたいことをはっきりさせて書こう  
『自分の成長をふり返って』(9時間)

単元の  
ねらい

自分の成長について感じたことがより読み手に伝わるよう、理由や事例との関係、文章全体の構成に気をつけながら文章を書くことができる。

本時の  
ねらい

伝えたいことが明確になるように組み立て表を作ることができる。(第3、4時)

指導時期

2月

### 指導者用デジタル教科書(教材)活用の意図・目的

私が授業を行う中で、「組み立て表は書いたものの、文章にうまくつなげられない。」という児童のつまずきが多く見られた。そこで、組み立て表に書いた内容を文章にどう反映すればよいかについて、「指導者用デジタル教科書(教材)」の「国語マーカー」を使って可視化することで、児童が見通しをもちやすくなるを考える。

また、本単元では文章を推敲していく場面がある。「国語マーカー」を使うことで推敲の視点(接続語、修飾語、段落など)を児童と確認することもできる。紙の教科書ではマーキングしたものを消すことが難しい。しかし、「指導者用デジタル教科書(教材)」上であれば、すぐに消すことが可能なので、何度も文章に追記をすることができる。

単元全体では、「思考ツール」の活用も期待できる。「題材の設定、情報の収集、内容の検討」の場面では、ウェビングやフィッシュボーンなどを活用することで、児童が自分の考えを整理することができる。文字を書くことに苦手意識がある児童にはデジタル上で「思考ツール」を活用させたり、デジタル上での活用が難しい児童にも、「思考ツール」を印刷して活用させたりすることで、それぞれの児童に有意義な学びを提供できる。

### 本時(第3、4時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>「指導者用デジタル教科書(教材)」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> </ul>	

**導入**

- 前時の学び（自分が成長したこと、成長したきっかけ、その時感じたことを思考ツールにまとめた。）を振り返り、本時の学び（自分の思いが伝わりやすい文章の組み立ての検討）を確認する。

**「本文拡大」の活用**

- 見通しをもたせるため、「本文拡大」(p.105～107)を提示する。

<b>終わり</b>	<b>中</b>	<b>始め</b>	伝えたいこと「マット運動で後転ができたこと」
<ul style="list-style-type: none"> <li>● もっともつとわがにちようせんしていききたい。</li> <li>● あきらめずがんばった自分。</li> <li>● アドバイスをくれた人への感謝の気持ち。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 父のアドバイスを参考にしたら、成功した。</li> <li>● ふとんの上でジャンプするくらいうれしかった。</li> <li>● 冬休みに家で練習したが、なかなかうまくいかず、あきらめかけた。</li> <li>● 友達や先生から三つのアドバイスをもらった。</li> <li>● 一人で取り組んだが、うまくいかなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先生が「来週からはマットです。」と言った時、すごく心配になった。</li> <li>● わたしはマット運動が得意ではない。</li> <li>● 後転に失敗した。</li> </ul>	

**展開**

教科書の「組み立て表」と「文章」に書かれていることを照らし合わせることで、「組み立て表」の必要性に気づかせる。

- T**：教科書の組み立て表を読み、それぞれに何が書かれているか、まず一人で確認しましょう。
- T**：組み立て表は「始め」「中」「終わり」の3つに分かれていますね。「始め」には何が書かれていますか。
- C**：自分の現状／取り組む前の気持ち
- T**：「中」には何が書かれていますか。
- C**：やってみた結果／うまくいかなかったこととその時の気持ち／うまくいったきっかけとその時の気持ち
- T**：「終わり」には何が書かれていますか。
- C**：周りへの感謝の気持ち／自分をほめている／今後の決意
- T**：「始め」「中」「終わり」を意識して文を組み立てると相手により自分の思いが伝わりそうですね。
- T**：次は本文を読みましょう。読み終わったら組み立て表と照らし合わせて、気づいたことを近くの人と話し合しましょう。
- C**：組み立て表に書いている順番にそって、文章が書かれている。

**「国語マーカー」の活用**

- 始めと終わり、変わっているところに「国語マーカー」でラインを引き、共有する。

<b>終わり</b>	<b>中</b>	<b>始め</b>	伝えたいこと「マット運動で後転ができたこと」
<ul style="list-style-type: none"> <li>● もっともつとわがにちようせんしていききたい。</li> <li>● あきらめずがんばった自分。</li> <li>● アドバイスをくれた人への感謝の気持ち。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 父のアドバイスを参考にしたら、成功した。</li> <li>● ふとんの上でジャンプするくらいうれしかった。</li> <li>● 冬休みに家で練習したが、なかなかうまくいかず、あきらめかけた。</li> <li>● 友達や先生から三つのアドバイスをもらった。</li> <li>● 一人で取り組んだが、うまくいかなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 先生が「来週からはマットです。」と言った時、すごく心配になった。</li> <li>● わたしはマット運動が得意ではない。</li> <li>● 後転に失敗した。</li> </ul>	

**2 組み立て表を書き、友達と意見をこうかんする。**

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	<p><b>T</b>：文章の流れを意識して組み立て表を考えていきましょう。また、自分の伝えたいことが明確に伝わるよう、教科書の「ここが大事」も確認し、意識してみましよう。</p> <p>● 文章の組み立てを検討する。</p>	<p><b>「本文拡大」の活用</b></p> <p>● 「本文拡大」でp.108「ここが大事」を提示し、ポイントについても全体で確認する。</p> <div data-bbox="842 271 1489 748" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> </div> <p>● マーキングずみの組み立て表や「文章」を児童がいつでも見返せるようなファイルを作成しておくことで、児童それぞれの学びが止まらないようにする。</p>
まとめ	<p><b>本時を振り返る。</b></p> <p>● 本時の振り返りを記入する。</p> <p>● 振り返りを共有し、次時の学びを知る。</p>	<p>● 振り返りの内容を共有する。</p> <p>● 次時では、組み立て表を見ながら文章を書いていくことを確認し、見通しをもたせる。</p>

## 指導者用デジタル教科書(教材)を活用したことで得られた効果

「指導者用デジタル教科書(教材)」の「国語マーカー」を活用することで、着目してほしい箇所を強調できる。また、デジタル教科書であれば消すことも追加することも容易である。さらに単元内で指導者がマーキングした画像を児童に返却(学習支援ソフトウェアを活用)することで、授業内で児童が見返すことができる。

また、「思考ツール」はそれぞれのツールの活用方法も記載されているため、教師・児童がともに使いやすいものとなっている。各単元の指導事項に応じて、「思考ツール」を活用することで、児童が主体的に学習できると考える。